

## 【第 11 分科会】

# 意外と知らない大学図書館：学生の利用 UP をめざして

発表者 田村 栄子（清泉女学院大学・短期大学図書館）  
司会・助言者 寺澤 真由美（信州大学繊維学部図書館）



## 1 発表の概要

清泉女学院大学・短期大学図書館が取り組んでいる国立国会図書館見学ツアーの事例を中心に、学生の利用 UP のための「図書館って面白い」を伝える取り組みについて発表が行われた。

### (1) 国立国会図書館見学ツアーの実施

- ・国立国会図書館東京本館、国際子ども図書館の見学
- ・ツアーの目的
  - 1) 機能の違いを知ることによって図書館の役割や資料についての関心を高める
  - 2) 図書館の新たな利用方法を学び、利用アップを図る
- ・事前学習の実施（国立国会図書館の概要と、NDL-OPAC の使い方）
- ・学生の反応  
探していた絶版の本を手にとることができてよかった、図書館のいろいろな役割を知ることができた、資料の大切さとそれを保管する大変さを改めて感じた、継続して実施してほしい、など好評

### (2) 学生へのアンケートの実施

- ・アンケートの目的
  - 1) 学生の利用満足度を測る
  - 2) 学生の要望を反映
  - 3) 図書館サービスの PR
- ・アンケート方法  
平成 25 年からマナバを利用（スマホからの回答も可能）→回収率が低下
- ・課題は、回収率をどうあげるか
- ・図書館側からの回答もマナバを利用



### (3) 学生ボランティアサークル「B3」の活動

◇B3 とは…Bee Bee Books の略。

蜂が花の周りに集まってくるように、図書館にもたくさんの学生が集まって利用して欲しい、という願いを込めたサークル名。学生の目線で図書館を PR することを目的に活動を始めた。

#### B3 の活動内容

- ・図書館だよりの作成
- ・Book フェア・DVD フェア

- ・物語に出てくるお菓子づくり
- ・創立記念日の展示
- ・クリスマスイベント
- ・ホンデリング
- ・ヨムゾーのサポート etc

課題として、マンネリ化、学生（メンバー）のモチベーションの維持、メンバーの確保、学生への認知度が挙げられた。

#### ◇学生への願いは

「卒業しても、図書館が身近な存在であってほしい」



## 2 協議内容

国立国会図書館見学ツアーへの申込者数について、最小決行人数や、司書課程がない大学でのこのような取り組みへの反響などの質問が挙がり、回答を得られた。

その後、参加各館からもそれぞれ学生の利用UPへの取り組みが紹介された。

#### ◇学生の利用UPへの取り組みの一例

- ・企画展示
- ・リフレッシュエリア（飲食可エリア）の設置
- ・ラーニングアドバイザーの配置
- ・ブックハンティングの実施
- ・開館時間の延長
- ・ビブリオバトル
- ・SNSを使った情報発信

- ・謎解きゲームの実施
  - ・講習会、講演会の開催
  - ・教員とタイアップ
  - ・他部署と協働して図書を選定
  - ・配架、展示場所の工夫（目立つ所、人通りの多い所に展示する、表紙を見せる展示）
- etc.

また、今大会前にアンケート項目の見直しなど各館で有効に利用してもらうことを目的に、各都会館で実施している利用者アンケートの提供を依頼し、当日複数館からアンケート資料の提供があった。

## 3 まとめ

清泉女学院大学・短期大学図書館の取り組み事例を筆頭に、各参加館の取り組みを知ることで、様々な角度からの取り組み方があったことがわかった。今後も県内図書館間で情報交換を行って、学生に利用される図書館にするヒントを得ていきたい。

